

に衆の会して騎射するを禁ず」と記している。社殿は天武天皇6年（677）に初めて社殿を造営と記されている。

天平元年（729）頃までの文献にみえる賀茂社は上賀茂神社をさし、下鴨神社の成立は天平勝宝2年（750）頃。

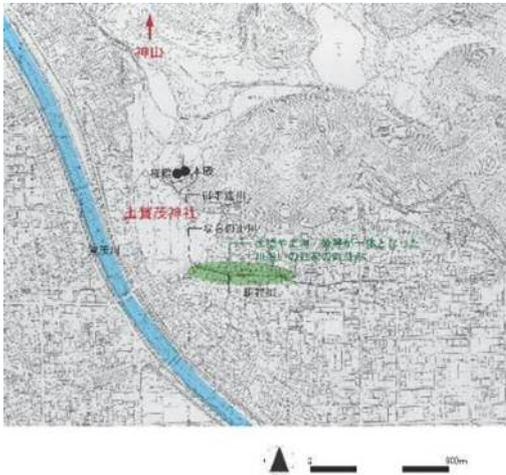


図2-13 上賀茂神社

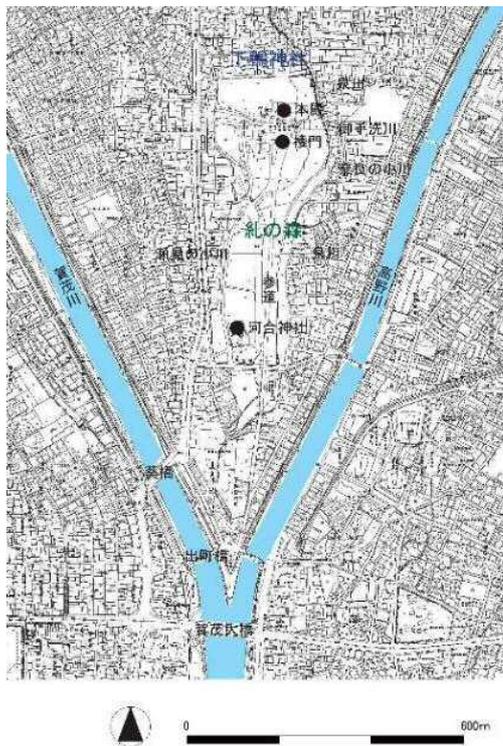


図2-14 下鴨神社

(b) 葵祭と一連の祭事

葵祭に先駆けて、上賀茂神社（賀茂別雷神社）では、競馬会神事（賀茂競馬、市登録無形民俗文化財）や、祭祀の中でも最も古く荘厳な神事である御霊迎への神事、御阿礼神事

などが行われる。また、下鴨神社（賀茂御祖神社、国宝他）でも、神霊迎への神事である御蔭祭が行われる他、両社が隔年交代で行う斎王代御禊など、葵祭を中心とした賀茂祭の行事が多数執り行われる。

競馬会神事は、寛治7年（1093）の5月5日の節句に催されていた宮中武徳殿の式を上賀茂神社に移し奉納されたことに由来する、天下泰平・五穀豊穡を祈願する神事である。

御霊迎への神事は、御蔭神社から葵祭の神霊を迎える神事で、社伝では人皇第二代綏靖天皇の3年に始まった、わが国最古の神幸列といわれる。室町後期に中断したが、元禄年間（1688～1704）葵祭とともに復興した。

御阿礼神事は、上賀茂神社の神事で、当社最古の神事といわれる。

葵祭の祭儀は、宮中の儀、路頭の儀、社頭の儀の三つからなるが、現在は路頭の儀と社頭の儀が行われている。

路頭の儀は、5つのグループから構成された総勢512名（馬36頭、牛4頭、牛車2台、腰輿1基）、約700メートルの行列である。

それぞれに平安時代の装束に身をかため勅使・斎王代を警固しながら、午前10時半に京都御所の建礼門前を出発する。

京都御所を出発した行列は、丸太町通、河原町通を通り、下鴨神社に到着、その後、下鴨本通や北大路通、北大路橋、賀茂川堤を通り、午後3時30分に上賀茂神社に到着する。その間、約8kmの道のりとなる。

華やかに飾った牛の背に付けた鈴の音とともに、ギンギンとなる牛車や十二単の斎王代の登場に沿道の観衆の歓声上がる。

斎王代とは、鎌倉時代まで続いた賀茂社の斎王を模した役割で、毎年、未婚の女性を一般から募集している。もともと、斎王は皇族の未婚の女性から選ばれる習慣で、天武天皇の時代に制度化した伊勢神宮の斎王（通称、斎宮）の制にならって、弘仁年間（810～824）から賀茂社でも斎王（通称、斎院）